

ぞうきみにくる

登場人物

佐々木 幹助  
桐野 弥生

何処かの動物園の待合室。乱雑に動物に関する本などが置かれている。片隅には羨びたリングゴが山積みされている。舞台上には机とそれを挟むように椅子が二脚。檻を思わせるような長い棒がいくつも舞台を取り囲んでいる。リングゴが所々に釣られている。弥生がやってくる。入っていいのかと気にしながら中に入ってくる。

弥生 すみませーん 誰かいますか

受付 はい

弥生 あ、こんにちは

受付 こんにちは

弥生 あ、すみません

受付 はい、どうされましたか？

弥生 桐野と申しますが、あの佐々木さんいらつしやいますか？

受付 はい。佐々木ですね。どういったご用件でしょうか？

弥生 あれ、あの、その、先ほど？先刻？連絡させていただいたんですけどその、私

受付 どちらの佐々木でしょうか？

弥生 どちら

受付 佐々木と言うのは三名おりまして、事務、清掃、ゴリラと、どちらでしょうか？

弥生 あの、象です

受付 どう？

弥生 そうです

受付 どう。。。どう。。。んー（何か手許にあるファイルを見ている）

弥生 すみません

受付 申し訳ございません。当園に象を担当している「佐々木」というものはおりません

弥生 あ、え、でも、その、あの、そんなことないと思うんですけど

受付 はあ、そうおっしゃられましたも

弥生 あの、佐々木幹介って

受付 ああ、あの佐々木さん

弥生 はい、あの佐々木さんです

受付 あ、ちょっと待ってください、ちょっと待ってください

弥生 はいはいはい

受付 これかな。あなた桐野さんですか？

弥生 はい、桐野です。先ほど連絡させてもらった

受付 さっき私じゃなかったもんですみません。失礼しました

弥生 いえいえ

受付 今、確認しますね

弥生 あ、はい

受付 はい

弥生 あ、すみません あ、ありがとうございます

うっすらと明かり 弥生は中に入り、あたりを見回す。ドアの外をもう一度見回して恐る恐る部屋を。

## 2

弥生一人で待合室に座ってあたりを見回したり、そわそわしている。幹介がやってくる。

幹介 おう

弥生 やッ

幹介 よう

弥生 ようって

幹介 え？

弥生 いやいや

幹介 なに

弥生 や、なんか

幹介 なに

弥生 ようって、なんか

幹介 なんだよ

弥生 明るいやつみたいで

幹介 べつにいいだろ

弥生 いいんだけど

幹介 けど？

弥生 なんか

幹介 なに

弥生 そんなキャラじゃなかった

幹介 そうだっけ

弥生 そう

幹介 なんか、忘れちゃった

弥生 自分のキャラを

幹介 はは

弥生 笑ってる

幹介 どんなんだっけ？

弥生 わかんないけど。ひさしぶりーみたいなの

幹介 そっか

弥生 うん

幹介 久しぶり

弥生 うん。久しぶり

幹介 うん

弥生 うん。あ、これ（弁当を渡す）

幹介 なにこれ

弥生 お弁当

幹介 ありがとう（放るように机に）

弥生

幹介 元気そう

弥生 そちらも。焼けたね

幹介 そう？

弥生 真っ黒。日焼け止め塗ってる？

幹介 塗ってない

弥生 塗らないと。シミになるよ

幹介 うん

弥生 シワも出来る

幹介 うん

弥生 予防が大事なんだよ。日焼けは

幹介 うん。大丈夫だから

弥生 今は大丈夫でも、十年後に

幹介 うん、大丈夫だから

弥生 アメリカの運転手さんは半分だけシワしわになっちゃうんだよ。何年も窓側だけずっと日に当たってて

幹介 うん、大丈夫だから。俺は。日に焼けてもいいから。そっちもちょっと

弥生 ちょっと？

幹介 焼けたね

弥生 うそ

幹介 うそ

弥生 うそ？

幹介 いや、嘘じゃないけど

弥生 焼けてる？

幹介 いやいや、気にするほどじゃない

弥生 でも焼けた？

幹介 ちよつとね

弥生 日焼け止め塗ってるのに

幹介 塗っても焼ける時は焼けるから

弥生 そうなんだよね。日に焼けないように腕をこうして裏っ返しにして歩いているのに

幹介 あはは

弥生 へへ

### 変な時間

幹介 二か月ぶり？

弥生 三か月ぶり

幹介 あ、ごめん

弥生 まあまあ

幹介 迷わず来れた？

弥生 うん。もう何回も来たことあるから

幹介 でも前は迷ってた

弥生 駅前に大きい看板ドーンってあったから。象とキリンとカバが肩組んで右足あげてるやつ

幹介 はは、あれね。カバなんかいないのにカバ描いてあるんだよな

弥生 前もそう言ってた

幹介 そうだっけ。でも迷わず来れてよかった

弥生 来るかどうかは迷ったけど

幹介 え？

弥生 (かき消すように) むしろこの応接室に来る方が迷った。あっちの建物のこっちの階段を登らないで右の扉を開けると思いきや開けないで廊下をずつ

と行って左に曲がって同じ所に戻ってきてため息ついてそれから

こんな小さい動物園そんなにウロウロしなくてもどこにでも行けるでしょ

どこにでもは行けないよ

行けるよ。小さいんだからすぐく

どこにでもは行けないでしょ（大きな声）

お、どうした？

なにが？

いや、いま大きい声

だしてないじゃん

だした

だしてない

だしたって

だしてない

だした

（大きな声）だしてない！

ほら、今、それ、大きい声

はい、だしただしただしました。そりやだすよ。（大きな声で）おーい！私大きい声出してるぞ！

おいおいおいおいおい、ちよつとちよつシーー！

なに？

静かに

なんで？

仕事抜けてお前と会つてるときにそんな大きい声！聞こえてきたらなんか駄目だろ

いくら小さいからって聞こえるわけないでしょ

聞こえるんだって。気まずいんだから

仕事抜けてきちゃだめだったの？

いやいやそういうわけじゃないけど

ごめん

いやいや、大丈夫だから

ごめん無理言つて



幹介 だから大丈夫なんだって  
弥生 ごめん  
幹介 いいよ  
弥生 ごめんって  
幹介 だからもういいって  
弥生 ごめん。って言って  
幹介 え？  
弥生 ごめんなさいって言って  
幹介 え？  
弥生 言って  
幹介 なに

弥生はうずくまるような恰好になる

幹介 えー。。。ごめん  
弥生  
幹介 ごめんって  
弥生 なにに？  
幹介 え？  
弥生 なにに謝った？  
幹介 え？  
弥生 なにかわかんないのに謝った？  
幹介 いやいや  
弥生 じゃなに？なんで謝った？  
幹介 それは、え？だって  
弥生 適當？  
幹介 まさか馬鹿ちがうよ  
弥生 じゃ何？  
幹介 適當じゃない

弥生 はい

幹介 だから今、二回謝っただろ？

弥生 はい

幹介 だからあれは最初なんでかわかんないのに謝ってごめんなさいっていう二回目なに？

幹介 あ、ごめん。あ、このごめんはその今のに対しての

弥生 え？

幹介 え？

弥生 え？

幹介 え？

弥生 なに言ってるの？

幹介 なに言ってるの？

弥生 象とばかり喋ってるから喋れなくなっちゃった？禁断症状、象に会いたくなっちゃう病になっちゃった？その病気になるまで語尾に「ゾウ」をつけずにはいられなくなり、右手を象の鼻に見立てて喋り、私生活では左手しか自由がなくなり、右利きの人は大変難儀な思いをすると社会問題にまで発展したあの

幹介 なに言ってるんだ

弥生 来なきやよかった

幹介 え？

弥生 帰る（荷物をしまい始める）

幹介 え、ちよつと、なんで、来たばかりじゃん

弥生 帰るわ

幹介 待って

弥生 どいて！

幹介 なんで、おい、帰るっていまからどうやって帰るんだよ

弥生 夜行バス名寄川駅前ファミリーマート前二時三十五分発

幹介 え、今日帰るの

弥生 当たり前じゃん明日も仕事だし

幹介 なんてだよ泊まっていけよ

弥生 泊まらない。なぜなら今帰るから

幹介 今って、そんな全然バスの時間まだだろ  
弥生 別にいい。停留所にずっと係員のおじいちゃん座ってるから  
幹介 おじいちゃんが座ってるからなんなんだよ  
弥生 パターゴルフ仲間の恋愛事情とか聴いて時間潰す。じゃっ  
幹介 おい、ちよっと待ってっ

弥生は行こうとするが幹介それをなんとか止める（やめて離して！）（待ってっ！）とか言っている

弥生 ごめんなさい

幹介 え？

弥生 大きい声出してごめん

幹介 なんだよ

弥生 本当にごめんなさい

幹介 なんだよ、なに言ってるんだ

弥生 ごめんね大きい声出して。恥ずかしいよね。こんな押しかけてきちゃって。仕事抜けださせて。お弁当なんか作ってきちゃって。ピクニックでもないのに。食べるもの動物園だからいっぱいあるのに。肉も野菜も草とか骨とか魚とか

幹介 いや動物の物は食べないから

弥生 でもね私だってこれ一生懸命つくってきたんだよ。それそんな風にしなくてもいいじゃん

幹介 なんのこと？

弥生 投げた

幹介 なにを？

弥生 弁当を

幹介 は？

弥生 弁当。投げて返した。せつかく久しぶりにちよっとだけでも会えるって楽しみにしてたのに。そんな風にしなくてもいいじゃん  
幹介 投げてないよ

弥生 投げた投げたよ投げて返したよ！フイって（弁当を投げて見せる）

幹介 投げてない！投げないだろ！こうやって置いただろ

弥生 投げたよ！象に餌やるときみたいにフイって！

幹介 象に餌やるときに投げたりしない。象に餌やるときみたいに優しく優しく置いたよこうやって（優しく置いてみせる）

弥生 ああ！象の弁当は優しく置くのに私には投げて置くのか！

幹介 そんなことしてない！象の弁当ってなんだ！

弥生 した！絶対した！こんなもん食べるかよ！ゲロゲロって

幹介 異議あり！

弥生 却下します！

幹介 不当だ！

弥生 その手の汚さは心の汚さ！被告人の異議は認められない！手を洗え！日焼け止めを塗れ！

幹介 あーこの右手なんで馬鹿！っていや違うこれは象のうんこだ！この手は働いていることの勲章だ！不当とされる方が不当だ！

弥生 被告人はわかりやすく簡潔に述べてください

幹介 つまり私が言いたいのはそんなことしてないだろ！ってことです。してないし、こんなもん食べるかとか言っていないだろってことです。嬉しい。つく

ってきてくれて。喜んでいいる。嬉しくて恥ずかしさがこみ上げるくらい。こんな俺のために弁当つくってきてくれるなんて。って気持ちだ。嬉しいよ。

いま食べるよ

え

弥生 (弁当を猛然と開いて手づかみで食べ始める)

あ。。

幹介 うん

弥生 箸(箸を渡そうとする)

幹介 なるほど

弥生 なに？まずい？

幹介 いやいや、これはこれで

弥生 これはこれで？

幹介 いや、本当に

弥生 本当になに。まずかった？

幹介 ううん、象にキスしたみたいない匂いがする

弥生 象にキスしたことあるの？

幹介 そりゃあるだろ

弥生 げ

幹介 げって

弥生 口に？

幹介 鼻だよ

弥生 鼻？

幹介 うん。俺が朝一に行く。そうすると寄ってきて長い鼻で俺のほった撫でる。俺の時だけ。他のやつじゃ絶対にそうはやらない。寄りもしない。んで、俺も短い鼻であいつの鼻なでる。そのときに。鼻の先口みたいになってるだろ？あいつら

弥生 うへ

幹介 はは

弥生 はい。ミンティアあげる

幹介 なんて？

弥生 それ臭いの肉じゃがじゃなくて象でしょ？

幹介 え？

弥生 象のうんこでしょ

幹介 。。。馬鹿だな。象のうんこは臭くないんだよ（自分の手の平を嗅いで、弥生にも見せるように差し出す）ほら

弥生 （また象の話してるなという顔）

幹介 （手の平を握手するように傾ける）

弥生 （気が進まないが自分の手も差し出してみる）

幹介 （その手を握る）まだ帰らないで

幹助 本当にごめん

弥生 いいよ別に、夜行バスのシートけちって狭いやつにしちゃったから。二席ぶん取っというてちょうどよかった

幹介 なにがちょうどいいの

弥生 小さいから横になれる。ふふ

幹介 え、なに、なにが面白いの？

弥生 なぞかけみたいだね

幹介 どころが

弥生 一緒に帰ると思ってた恋人が帰らないといいだしたけどちょうどよかったです。その心は！狭いシートが一人で二人分使えます。

幹介 なんだよそれ

弥生 ねえねえ、うまい？

幹介 うまくないよ

弥生 かなしい？

幹介 いやいや

弥生 かなしいよ。客席から「よ！涙ちよちよぎれ！」って空気読めない眼鏡がこのひたいのところに食い込んでるおじさんにかけて声かけられるやつだよ

幹介 ごめん

弥生 幹助くんは嘘つきだ

幹助 ごめん

弥生 今日、この日。一緒に帰ってくれてくれたのに。こんな遠くの動物園きっぱりやめて。だから私はここまで来たのに

幹助 仕方ないでしょ

弥生 どうして？

幹助 話したでしょ？

弥生 どうしてあなたがここにいなきやいけないの？

幹助 知ってるでしょ？

弥生 象の世話するんでしょ？

幹助 そうだよ

弥生 だったらもういいじゃん。いっぱいやったじゃん。大体幹助くんもう動物園やめたのに

幹助 やってるよ今！

弥生 やめた！あの日、俺はもうやめるとか言ってここのところでうずくまってたじゃん  
幹助 言っていないだろそんなこと  
弥生 今から魚問屋になるとかなんとか泣きながら言ってたよ  
幹助 それは言ったかもしれない  
弥生 でしょ？  
幹助 言わなかったかもしれない  
弥生 言わなかったのはそのことじゃないでしょ？  
幹助 なんのこと？  
弥生 いつ  
幹助 いつって？  
弥生 予定日  
幹助 予定日はもうすぐ  
弥生 前からそうだったってのはわかってたって事？  
幹助 そうだよ  
弥生 何でそんな事もっと早く教えてくれなかったの。なんでいまさらそんな事言うの  
幹助 別に言わなくてもいいかと思って  
弥生 あーそう別に言わなくてもいいかと思ったんだ  
幹助 お前関係ないだろ  
弥生 あんたと関係のあるその子、出来ちゃったんでしょ？子供。ハナコ？ハナコちゃんだっけ？  
幹助 そうだよ  
弥生 へーめでたいねーそりゃそりゃ。ハナコちゃんおめでどうー  
幹助 何言ってるんだ。落ち着けて  
弥生 あー最悪だ何て人間だ。うあーだめだ駄目人間だ。何で私こんな人と付き合っちゃったんだろ  
幹助 なんなら呼ぼうか？ハナコー  
弥生 じゃあんたにとって私はなんなのよ！  
幹助 だから落ち着けよ  
弥生 いやよ！なんであんた落ち着いてんのよ もっと泣いたりしろ、泣いて謝れ！  
幹助 お前おかしいのか、ハナコって象だぞ  
弥生 象でも何でも自分の子供だって言った

幹助 自分の子供みたいって言ったんだ  
弥生 兄弟みたい家族みたい恋人みたいって  
幹助 そこまでは言っていない  
弥生 大体なんだよハナコって。有名なが他にいるのにそんな名前つけていいのか  
幹介 仕方ないだろ。市内のちびっこに募ったらークラスみんなハナコがいいって送ってこられちゃったんだって言った。なにに嫉妬してるんだ。象だぞ  
弥生 でもかわいくて仕方ない？  
幹助 そりやお前  
弥生 目に入れても痛くない？  
幹助 そうかもしれない  
弥生 本当に？象だよ？でかいよ？肌バサバサのガチガチだよ？頭が引っ掛かってイテテテテってなるよ？想像してみて  
幹助 へ？  
弥生 象。鼻長い。うるるな瞳  
幹助 かわいいな  
弥生 鼻をぷーんって  
幹助 おーすごいすごいお利口だねお前は。バナナをあげようか  
弥生 ジュボ（幹助の目に頭を突っ込む）  
幹助 え？  
弥生 おりやあ！にじよむんふんぬらばああ！  
幹助 うあーうあああうあー！！  
弥生 まにやまにやああああうおりやー！  
幹助 がーやめてーもうやめてー！  
弥生 痛いああ！  
幹助 痛いわ！  
弥生 痛いんじゃん  
幹助 あいな  
弥生 それとも象ならいいけど私じゃ駄目って事？  
幹助 そういう事じゃなくて目に入れても痛くないってのは  
弥生 気持ちが変わるい  
幹助 なにが



弥生 うえああ

幹助 え？大丈夫？ここでは吐かないで

弥生 つわりだ

幹助 え、嘘付け嘘だろ

弥生 私とは所詮体だけの関係だったの？

幹助 あれ、え？本当なの？エ、本当に!？

弥生 象を目に入れても痛くないくらいなんて

幹助 何だよ、え、妊娠は？

弥生 ごめんなさい、私本当は象気持ち悪い

幹助 何でだよかわいじゃない。長い鼻、大きなお尻、つぶらな瞳に太い足。ノシンノシン。妊娠は？

弥生 臭いし

幹助 臭くない。かわいいよ

弥生 はっ!？ハナコの子供の父親ってまさか（お前か）!？

幹助 （なんとなく照れるような）いやあ、まあ

弥生 ごめんなさい、失礼しました、もう二度とあなたの前には （猛烈な勢いで帰り支度）

幹助 え、冗談だよ、ねえ冗談。嘘よ、待ってねえ待ちなさい!

弥生 もう嫌だよー

幹助 どうしたんだよ

弥生 （泣いているのか）

幹助 どうして象が好きなの

弥生 え？

幹助 じゃあここの象じゃなくても可愛い？

弥生 そりゃここの象じゃなくても可愛いけど

幹助 例えは

弥生 例え？

幹助 ここじゃなくてもいいんなら、例えばここのじゃない象でかわいいんなら

弥生 おい

弥生 ここじゃなくても可愛いならわたしの家から近い動物園でもいいじゃん。あそこなら象いるし電車で20分だしほらほら飼育員の募集もやってたよ。

プリントアウトしてきたの

幹助 弥生さん？

弥生 いきなり象ってわけにはいかないかもしれないけど経験にモノを言わせてバリバリやればさ、ほらここの動物園なんかちょっと遠いけど急募だよ急募

幹助 おい

弥生 それからね、これは電話でも聞いたところなんだけどね(飼育員募集ページの印刷)

幹助 おい

弥生 なんて？幹介君言ったじゃない。私に。約束した

幹助 象はめっちゃくちゃ食べる。一日に150キロくらいむしゃむしゃ食べる

弥生 私だってむしゃむしゃ食べるよ、一日に5食くらい。おやつのぞいで

幹助 でも、一年前の震災で前の動物園閉鎖になって食べ物がなくなった。象の食べる量は減るわけじゃない。他にも動物沢山いる。このままではみんな餓

死。だから色んなところから助けを借りて、前の動物園からこっちの安全で食べ物がある動物園に移されたの。動物園どころじゃなくなっちゃったし

弥生 こっちは被害なかったの？

幹介 ないことないけどあっちにくらべたら大したことなかった。俺たちだって引越しを余儀なくされたでしょ？

弥生 つまり食べ物があれば象さんだけの移動で

よかったってことでしょ？幹助君関係ないじゃん

幹助 ハナコはすぐく頭がよくて臆病なの

弥生 ぶりっこだ

幹助 いつも俺からじゃないと餌を食べなかった

弥生 何だよそれ。漫画みたいな事言っちゃって

幹助 その時の移送で環境変化して飼育員も変わってハナコ全然ご飯を食べなくなっちゃった。やせ衰えてゆくハナコ。出産前なのに。これやばくない？

弥生 そこであなたが呼ばれたの？

幹助 赤ちゃんもしかしたら死んじやうかもしれないんだよ？

弥生 だからってあなたじゃなくても点滴かなんか

幹助 しかもハナコ捻挫しちゃうったんだよ。二回目の余震の時ちようど立ち上がろうとして。体が大きな動物にとって足を怪我するのはどんな環境であ

弥生 れ命に関わる事なんだよ。カバだってそれだけで命を落とすこともあるんだよ。競走馬なんて足骨折しただけで安楽死させられちゃうんだよ

幹助 どうして

弥生 体が大きくて足一本ないだけで自分を支えきれないし、そうすると今度他の足が病気になっちゃうんだよ。かわいそうじゃない

幹助 うん、かわいそう

幹助 ひとりで行かれないところ連れて行かれて知ってる人もいなくて、おまけに足まで怪我して、そりゃご飯も食べられなくなる

弥生 カバの足は短いのに捻挫するの？

幹助 いつも俺からならご飯を食べてたハナコ。このままじゃご飯食べなくて死んじゃうかもしれない。でももしかしたら、もしかすると俺からだったらハナコご飯食べてくれるかもしれない。それでこっちの職員さんが俺に助けを求めてきたの。慣れ親しんだ俺からならご飯食べてくれるかもしれない。

これ行かないわけにはいかないよね

弥生 いかないね

幹助 でしょ？だから俺はこっちにいるの。わかった？

弥生 ンーやっぱりわからん

幹介 もう

弥生 あきらめんなよ

幹介 あきらめてないよ。あきらめてないけど

弥生 あきらめてるよ。眉毛が変形して「諦め」って漢字になってるよ。左が言弁で右が立つっていう字に下が巾着っていう字の左側みたいなん

幹介 なんだよ、わかんないよ右とか左とか

弥生 いいの？私今日もう帰っちゃうんだよ？帰っていいの？これで帰っちゃったらもうそういうことだよ？

幹介 いいわけないだろ。いいわけないけど、そんなこと言ったってお前わかったってなってくれないじゃん！なんで？もう何回も何回も同じこと繰り返してるよこれ。なにこれ？なんで、どうして理解を示してくれないの？これはもう仕方ないことでしょ？

弥生 うん

幹介 でも全然わからうとしてくれない。全然。なんなの？

弥生 わからうとしてる！

幹介 してない！もうやだ！

弥生 だからあきらめんなよ！お前があきらめてどうする！私はこんなにわからうとしてるのに。考えても考えても同じところをグルグル回って、こんなに嫌なこととか考えちゃう自分に嫌気がさして、ああ、もういいやどうにでもなれとか思いながらやっぱりまた考えちゃってを繰り返してそれでもまだわからうとしてるのに！

幹介 だってじゃあどうしたらわかってくれるんだよ！無理だろ！俺には無理だよ！あいつのこと見捨てろって言うの？ここに独りぼっちにしてっていうの？可哀そうだろ！可哀そうだと思わないのか？

弥生 可哀そうだと思うよ

幹介 そうでしょ？

弥生 思う思う。めちやくちや思う。そういうことを大事にできるところもあなたのすごいところだと思う。でも私はどうしても、自分とあなたのことの方が大事だと思ってしまう

幹介 そりゃ俺だって大事だよ。あなたとのこと

弥生　でも結局こっちを選んてる

幹介　だってどうすりゃいいんだよ。はちきれんよ、ちぎれそうだよ。何も考えずにこっちにいるわけじゃない。何とかしなくちゃいけないと思ってなんと

も出来なくてここにいるんだよ。さみしいよ。俺はさみしいんだよ。そんなこと言うなよ。なんで、お前、帰るとか言うんだよ。わかってよ。置いてかないでくれよ俺を

弥生　よかったねハナコのところにこれて

幹介　なに

弥生　別に。ねえ。お母さん別になんにもないよねー。お父さんはお前より象が大事なんだってー（お腹をなでる）

幹助　嘘付けお前それはあれだろ太っただけだろ

弥生　うおえええう

幹助　ええ！？

弥生　（手を出す）

幹助　え？（おずおずと弥生の手を握る）

弥生　（その手を払い）じゃなくてお金。痩せるから。エステ代60万

幹助　いやいやいやいやいや

弥生　ちようだいよ、ねえ痩せるから

幹助　無理だよ。動物園の給料どんだけだと思ってるんだ。いいよ痩せなくて。そのままがいいよ

弥生　見てこれここ、（顎を見せる）すでに二重の塔。壮観？

幹助　これは中々じゃなくて、いいんだよいいよわからないけどとにかく今のままでいいよ

弥生　ごめんね太って

幹助　なんでだよ、だからいいんだってば

弥生　ごめんね幹助君毎日お仕事大変でやつれて行くばかりなのに私は平和にぬくぬく生きてて何の緊張感もなくこんな太っちゃって

幹助　ちよつとぼつちやりしてるくらいいのほうがエッチでいいよ

弥生　本当？エッチ？私今エッチ？どこがエッ

チ？

幹助　その二の腕のぷるるん具合とかお尻のこのこういう感じとか

弥生　エッチ？

幹助　エッチだねーすごくいいよ

弥生　する？

幹助　え？何を？

弥生  
する？

幹助  
いやここじゃ無理だよ、人来ちやうし。何処だと思ってるの？

弥生  
動物園の応接室

幹助  
無理でしょ

弥生  
大丈夫だよ。見つかってもきつと「ああ、繁殖期か」って

幹助  
そんなチンパンジーの檻じゃないんだから

弥生  
じゃ、キスだけ

幹助  
ばか

弥生  
私とはもうキスもしたくないの？

幹助  
いやいや

弥生  
象とはしてるんでしょ？

幹助  
キスして

弥生  
キスして

幹助  
(誰かこないか気にしながらほっぺに鼻キスする)

幹介は鼻で弥生にキスをしている。弥生もそれにこたえるように鼻でキスを返す。やがて弥生は戯れる象のように。幹介は飼育員のように弥生を撫でる。

幹助 フフ。くすぐったいよ

弥生 パオーン

幹介 よしよし

弥生 パオパオパオーン

幹介 あはは、お前の耳は象のくせに小さいな

弥生 パオ

幹介 怒るなよ。小さい耳も可愛いよ

弥生 私あなたとこうしてるの好き

幹助 あなたは？

弥生 あなたは？

幹助 私も。好きになりたい

弥生 何を？

幹助 象のこと好きにならせて

弥生 どうして？

幹助 象のこと好きになれば色んなことが大丈夫になる気がする。職場の人とビール飲みながら帰る帰り道も、暑くて眠れない夜も平気になれる気がする。

弥生 ハナコちゃんの事教えて

幹介 あははは（くすぐたがっている）うん。俺も好きだよ。こうしてるの

弥生 おりゃー！！（幹介をぶん投げる）

幹助 うわ！

弥生 私もね、象だったの。一瞬

幹助 なにすんだよ！

弥生 夜行バス、隣は化粧くさいおばさん。前の

席は音漏れっぱなしの男の子、狭くて暗い車内。びゅんびゅん通り過ぎていく景色。ここが一体どこなのかまるでわからない。私はカーテンの隙間か

ら外の景色を眺めてた。窓は露がついてて、氷みたいに冷たくなってた。私はもつとちゃんと外が見たくて袖で窓を拭いてみた。そしたらそこには目

が映ってた。象の目。横たわる。

幹助 象？

弥生 地上最大の哺乳類で耳が大きくて鼻が長い

幹介 象は知ってるよ

弥生 その象はとても長い時間歩き続けてきたの。天体望遠鏡でも見えないほど、想像ではたどり着けないほどの、途方もない距離を

幹助 なんでもわかるの？

弥生 目で

幹介 目？

弥生 よし、行くよ！

幹助 だから無理なんだよ

弥生 大丈夫ちゃんと二人分席とってあるから

幹助 なんてとってんだよ

弥生 幹助君窓側がいい？好きだもんね窓の外みるの

幹助 そういうことじゃなくて

弥生 ごめん、通路側がよかった？

幹助 だから無理なんだよ

弥生 無理なことなんかはない。今すぐ走っていけば、係員のおじいちゃんとお茶もできるよ

幹介 ハナコを置いていけないんだよ

弥生 じゃあハナコも連れておいで。どうせ席スカスカなんだから象の頭くらい乗るでしょ

幹介 そんなこと出来るわけないだろ、そういうことじゃなくて

弥生 そう。そういうことじゃないんだよ

幹介 は？

弥生 どうしたらいいの？ってなんなの？

幹介 なってるよ

弥生 なってないんだよ

幹介 なんだよ

弥生 あなたは私達の事について何も思わないの？

幹助 思ってるよ、考えてるよ

弥生 そうは思えないと答えるとしたら？

幹助 思ってるよ考えてるよ

幹助 そんなこと言ったって他に手が無いんだから仕方がないでしょ？

弥生 でもその後何もなかった

幹助 何もって？

弥生 なんにも。待てど暮らせど。幹助君忙しいのわかってたけど、わかってたから何にも言わずに待ってただけなんにも

幹助 だって話したじゃん。よし行って来いって言ってくれたじゃん

弥生 言ったけどでも、こんなに何ヶ月も何ヶ月も行ったまんまだなんて思わなかったし、こんな事私にとっては初めてのことで、死ぬほど不安な事だから

こういう形じゃなくもつとちゃんと納得したかった

幹介 ごめん

弥生 すぐ謝るな

幹介 そんなこと言われても

弥生 ずっとそう。ずっとそう。幹助君はずっと。すぐごめんごめんごめんごめん。ごめんですんだら家庭裁判所いらないでしょ？

幹助 んなこと言われたってごめんとしか言いようがないんだから

弥生 ある。頑張れ、なんか言ってる

幹助 なんだよそれ、無理だよ

弥生 出来るよ幹助、自分を信じて！

幹助 ごめんなさいとしか本当に言いようがないんだ。ごめんごめんってそれ以外に何が言えるって言うんだよ。本当にそれは申し訳ない、すみませんごめんなさいって思ってるんだよ俺は

弥生 開き直るのか

幹助 どうしろって言うんだよ

弥生 その君のここあたりにある何か湿った何かをごめん以外で、やってみて

幹助 やるってなに！？

弥生 やるんだよ！芸術は爆発だ！

幹助 だから電話して今は辞めてそっち帰れないから今日は来なくていいよって俺言ったよ

弥生 嘘かと思つた

幹助 何だそれ。ウソなんてつかないよ

弥生 ついたよ。今日。まさに今日帰るからそれまで待っててねって言ったじゃんあなたが待っててっていうから私待ってた

幹助 でもそれ二週間前にやっぱりねって話をしたでしょ

弥生 うそつきだ！象の飼育だつてキツパリやめるって言ったのだから嘘だった。嘘ばかりだ  
嘘ってなんだよ。嘘とかじゃないじゃんこれは



弥生 じゃあ嘘はなんにもないってこと？

幹介 最初そうだと思ってもやっぱりねってことはあるじゃん

弥生 わたしは嘘をついている

幹介 え、なに

弥生 職場で

幹介 なんて？

弥生 彼氏なんていないって言ってる

幹介 どうして？

弥生 面倒だから。説明が。こういう人と付き合ってもその人は象追っかけて遠くにいて。っていうのが。「大丈夫そんな彼氏」「会えない彼氏なんて意味あるの？」「どんな人なの写真見せてみなさいよ」「私も昔ねー」とかいっぱい言われて面倒なことは目に見えてるから仕方なく。でもどんな嘘でも嘘は嘘だから言うたびに伸びすぎた生垣のある道を通り抜けるみたいにガサガサってちよつとだけ痛い。幹介くんのこといなくて言っちゃうことがそれは申し訳ない

幹介 特に面倒なのが大貫さん。職場のすべての人の家庭事情から、次の休みにどこに行くのかまで知っている

弥生 いるよねたまにそういう人

幹介 彼氏いないって言ったら言ったで、いないなら作った方がいいって結局面倒

弥生 無視すればいいんだよそんなやつ

幹介 仕方がないから出会い系やってきた

弥生 え？

幹介 大貫さん。背がやたら高い関西弁のおばちゃん。結婚して子供も大学に行ってるのにやたら出会い系アプリに詳しくて「若いんやからもっと出会ってかなあかんで」ってやたら勧めてくる。アプリには詳しいけどその辺は前時代的で面倒臭い。関西弁が白々しくて、実は関西出身なのは嘘じゃないかと思ってる

弥生 え？

幹介 とにかく誰でもいいからいいねを送ってみろってずっと携帯のぞき込んでくるから仕方なく

弥生 兎に角この時間終われ！誰でもいいやつて思っていたけどいざ見てみると条件をちゃんと吟味してしまう自分がいた

幹介 え、なにそれなにそれ？出会い系？何で？

弥生 中学生の頃の私は一緒にいて楽な人、笑顔の素敵な人がいい。それが好きな人の条件だと本当に思っていたし、今でも変わらないと信じていたけど、そこにはもうあの頃の私はいなかった。笑顔だけじゃだめなんだと、にっこり男たちを次々にスルーしてしまう私の指！ああ！私には幹介くんがいるのに！

弥生

幹介

弥生

幹介

弥生

幹介

のに！

幹介　なんでそんな吟味するんだよ、大貫さんをやり過ぎただけだろ

弥生　たどりついたのが田中さん

幹介　たどりつくなよ。誰だよそれ

弥生　背低くてお腹がひょうたん持つてる狸みたいにぼんぼこの商店街の電気屋の長男坊

幹介　どういう吟味なんだ

弥生　意外と優しい

幹助　え、なになんで優しいかどうか知ってるの？

弥生　職場にもたまに来てくれる

幹助　職場？ドラッグストア？なんで？そんなやつドラッグストアで買うもんないだろ

弥生　ミンティア買ってくの

幹助　ミンティア？

弥生　（鞆から何種類もの大量のミンティア）ザバー

幹助　！

弥生　お察しの通りくれるの。買った奴を

幹助　察してないよ

弥生　適当に好きな物はミンティアですって言ったら

幹助　適当いいけど適当すぎだろ

弥生　ミンティア二つ買って一つ私に一つ自分用に

幹助　信じちゃってる馬鹿だなそいつ

弥生　店員割引あるから私は自分で買ったほうが安いのに。でも沢山くれるから沢山食べてたらだんだん。好きになってきた。おいしいよミンティア食べる？

幹助　あのお前そんな奴絶対に

弥生　優しくて色んなものくれるの

幹助　ミンティアだろ

弥生　ラインしてくれるし、この前はネックレスくれたし

幹助　ライン交換してる。しっかりしろ気を確かに

弥生　そう。しっかりしろ気を確かに

幹助　そうだ

弥生　君は悪い男に騙されてるだけなんだ

幹助　戻ってこい戻ってこい！

弥生 だからそんな男忘れて僕と、僕と、  
幹助 弥生さん？なにになにやよいさーん？  
弥生 職場の人にも、友達にも濁してしか言えない幹介君のこと田中さんには話せてしまう  
幹介 関係ないやつだからだろ？関係ないやつには色々話せちゃうもんだから  
弥生 夕暮れの公園。冷たい風。ブランコに二人のり  
幹助 二人乗り？  
弥生 そう。私が座って田中さんがここにこうやって立ってるの  
幹助 おい、待てよなんだその態勢、なんで二人で立漕ぎなんだ！手握ってるだろ！夕焼けで二人がシルエットになってるだろ！アフリカの大きすぎる夕焼けのキリンの写真みたいになってるだろ！  
弥生 優しく頭をなでる田中さん  
幹助 違うってそれ優しいんじゃないんだって、やらしさとやましきの入り混じったやつなんだって  
弥生 それで私のほうが話をいっぱい聞いてもらってるのに  
幹助 何を話すの  
弥生 頭なでた後は必ずごめんって言うの  
幹助 なんで  
弥生 ごめんって言われてもねえ。男はごめんが大好きなのか？  
幹介 いや、  
弥生 だってこれ付き合ってるって言える？  
幹助 え？  
弥生 これ。私たちの今のこのこれ。この状況。私幹助君の顔見たの何ヶ月ぶりだよ  
幹助 うん  
弥生 幹助君私には何にも相談してくれない。全部自分で決めちゃう。私が幹助君の顔見てて、そしたら幹助君が雲見る雲？  
幹助 私は幹助君と同じもの見たくて雲を見る。面白くなくても。それで面白くもない雲見てて振り返るともう幹助君は決めてるの何を  
弥生 いろんなことを。一人で  
幹助 決めてないよ  
弥生 きっと私に何相談しても無駄だって思ってるんだ。馬鹿だからあたし  
幹助 そんなことないよ

弥生 相談されても、いいこと言えないから。そうだねー、とりあえずやれる限り頑張ってみたら？みたいな  
幹助 …、  
弥生 意味がない  
幹助 なんの意味  
弥生 私達の  
幹介 (なにか言おうとする)

外からライオンの鳴き声が聞こえる

弥生 なにあれ？  
幹介 ん？ ああ、マックスくん  
弥生 だれ？  
幹介 すぐその。ライオン舎の雄ライオン。この時間になるとああやって吠えてるの  
弥生 なんて？  
幹介 わかんない  
弥生 ボスなの？  
幹介 別にボスでもない  
弥生 さみしいのかな  
幹介 なんて？  
弥生 アフリカからこんな遠くに連れてこられて  
幹介 あいつはここで生まれたんだよ  
弥生 そうなんだ  
幹介 ここがふるさと  
弥生 やっぱりさみしい  
幹介 うん

何も言わない時間

弥生 やっぱり私と一緒に帰って

幹助 どうしたらいいんだよ

弥生 泣かないでよ

幹助 バスってお前なんでバスなんだよ

弥生 安かったから

幹介 あとどのくらい？

弥生 あと一時間くらい

幹助 新幹線とかなら明日でもよかったのに

弥生 時間がないないって言ってたのは君のほうでしょ

幹助 ないって言ったってあるっちゃあるんだよ

弥生 いいかげんだ

幹助 そんなもんだ

弥生 バスなんてこの世になればいいのに

幹助 なかつたら困るでしょ

弥生 私何もなくてもなんにも困らない。人類文明の利器とは縁を切って縄文人みたいに石で肉切って、こうやって棒つきれで火を起す。こうやってこうやってふーふーって筋肉はち切れるほどやって火を起こす。

幹助 それじゃちっさい火しか起こせないだろ

弥生 小さな灯りでも私はいい

幹助 いいの？

弥生 だって私は小さな灯りだ。それこそ何にも照らせないような小さな灯りだ。幹助君だってそうでしょ？もし君が灯りだったら何もできないようなちっさい灯りでしょ？でも私はそれで全然いいの。どうして何か出来なくちゃいけないの？

幹助 何もできないって事は何もできないってことなんだよ？

弥生 じゃあ何私はここに意味なしってこと？上から三つ目のボタンくらいあってもないような存在？

幹助 そんなこと言っていないだろ

弥生 そんなふうに聞こえた

幹助 そんな事言うわけない、意味あるよ！そこにいるという事がもう意味なんだよ。君がそこにいるという事が大事なんだよ、意味がないとか言うな！意味なんかあってもなくてもいいんだよ。そこにいるってことが何かの意味があるよりも大事だったりするんだよ。でも、でも、でも何も出来ないって

弥生 ことがすごく辛いってことってのはあるでしょうが。

幹助 どうしたの？

弥生 だってあいつには俺しかいないんだよ？あいつ俺からじゃないと餌食べないんだよ死んじゃうんだよ？死ねってどういうの？

弥生 そんなこと言っていない

幹助 俺は今必要とされてるんだよ？

弥生 何だよそれ？

幹助 平凡に生きてきて、何の能もなく大学行って動物好きだから動物勉強して動物園就職して。糞にまみれながら働いて。誰にも迷惑かけないようにこっそりこっそり生きてきて。地方動物園は客も少ないし、だから給料も少なくてそれでも象とか、お前とかいて細々と幸せだけど

弥生 私、象の後？

幹助 今どっちでもいいだろ

弥生 よくない

幹助 お前とか象とかいて細々と。でもやっぱり駄目なんだよ、俺は、愚図で馬鹿でへまはやるし、人は傷つけるし、ご飯も食べる。寝れば場所も取る。なんの役にも立たないのに

弥生 皆そうでしょ？

幹助 でもでも俺今、必要とされてるんだよ。俺にしか、俺だけにしかできない事があるんだよ。そりや世界にとっちゃ何の役にも立たないかもしれない。でもそれに答えたいんだよ。じゃなきゃ何のために生きてるんだよ俺。一生後悔するよ。毎日毎日死んだように生きることになるよ。だからここにいたいんだ！

弥生 そんな理由になるか、本当に死ぬわけじゃあるまいし

幹助 死にそうだよ。俺は何とかこうやってだましましたましました生きてるけど毎日孤独で死にそうになるよ息が止まるんだよ。こうしてる間だって、痛いよ！見てみる俺の胸！痛いんだよ、ここがキシキシキシして痛いんだよ。でもあいつはそれ以上に孤独なんだから！世界で俺だけなんだから

問

弥生 別れようか？

幹助

弥生 ハナコちゃんとお幸せに

幹助 なんて何でそうなる

弥生 と、いつも思いながらここに来る。今日こそはと。ドラッグストアでうざい同僚のおばさんに話しかけられて急にふと我に返る。あ、なんだこの人生。

どうなっちゃうんだって。バスにのる。高速バスは窮屈だけど、どこか遠くに行けるってワクワクする。通り過ぎてく夜の景色見ながらああ、明日は幹介くんとお別れだなと思う。窓に押し当てておでこが冷たくて痛くなる。でもこうやって幹介君に会おうと言えない。頑張れって思ってしまう。また会いに来るぞって

幹介 別れるとかいうなよ

弥生 なんて？ハナコちゃん妊娠してるんでしょ、もうすぐ子供産まれるんでしょ？あなたまた一睡もせずにつきっきりになるんでしょ。多分。本当に遠くに行ったままになる。わたしは？毎日効くかどうか分からない傷薬とか売る。いらっしやいませー軟膏ですか？家事のし過ぎにはこちら、旦那の暴力にはこちらですわー違いですか？んー。とかいって。友達と彼氏の悪口言い合ったりして。一人、コンビニで夜ご飯買う。お笑い番組見る。ゲラゲラ笑う。君の事なんか忘れるくらいに。でもずっと幹助君のこと考えてる。でも幹助君には全く会えない。忙しいから？全然こっちは帰ってきてくれないし、電話しても途中で寝るし、こうやって会いに来て象、象、象。あなたにとって私は何？この関係は何？・・・あの日は一人だった。明日もう二度とあなたに会えなかったかもしれないのに

幹介

不安のない普通の生活がしたいの私は

なに。不安のない普通って

普通

弥生

普通だよ。わかんないけど。ふつーの。朝起きて、仕事行って、帰ってきて一緒にご飯食べて、一日のあったこと話して、お風呂はいつて歯磨きして寝る。お休みの日に一緒に散歩に行く。そういうの。そういうのをどうなるんだろこれからって気持ちのない中で過ごしたい

(鼻を吸る)

あなたはなにもくない

え？

弥生

私からしたらすごい。なんにもないのは私の方で。こんなに一生懸命になれるくらい好きなものがあって、いっぱい勉強して、あんな大きな動物の飼育員やって。すごい。すごいんだよあなたは

いや、違うおれは

でも

弥生

でも？

どうして嘘つくの？

幹助

どうしたら嘘つかなくなってくれるの？

弥生

見損なわないよ私は。むしろ嘘つかれたほうが見損なう。ウソ。見損なわない。好きだから。好きでいたいから。嘘つかないで

幹介

うん

弥生

ごめん

弥生 知らない

幹介 …、

弥生 謝るのもう知らない

幹介 うん。。。俺

弥生 うん

幹介 象の飼育、今やってないんだ

弥生 うん。知ってたよ。受付のお姉さんに聞いた

幹助 清掃員でもいいからって、ここには頼んでいさせてもらってる

弥生

幹介 ハナコの子供だから面倒見させて欲しいって言うけどダメなんだって

弥生 ハナコちゃんも？

幹助 ハナコの世話は出来ない。ハナコはこれだから。リンゴあげるくらい

沈黙

弥生 それ、何？

幹助 ハナコ

弥生

幹介 俺、ハナコ殺しちゃった。俺がハナコを見殺しにした

弥生 ハナコちゃんもういないってこと？

弥生、猛然とリンゴの山に向かい、山を蹴散らす、

幹助に向かってリンゴを投げる

幹助 何してんの

弥生 (リンゴを食る)

幹助 うああああ、何してんだ！やめろ！！食うな！！はなせそれはなせ！やめろ！

弥生 触るな！



弥生は幹助を押しつけのけりんごを荒らし続ける幹助箱を落とす 中から大量の白いものが散らばる

弥生 なによそれ、なにそれ？思い出？なによそれ、なんなの、そんなのどうしたらいいの？思い出が相手じゃ勝ち目がないじゃないか！！！そうだ象の居

ない国に行こう、誰もいない国。象も馬もキリンも。そこで私たちは世界で二人きりりんごを作ったりしよう！美味しいりんごだ、真っ赤でツヤツヤで雨をも弾くりんご！弥生、机に登ったりもう誰にも負けないくらいに美味しい私たちだけのりんご

幹助 おい、お前何やってんだよ 危ないよ、降りてこい

弥生 私をもぐ、幹助君が受け取る。幹助君が袖でりんごを拭いて私が齧る。でも神様はりんごを食べるなって私たちを咎めるのかな？それ食べちゃ駄目つ

て咎めるかな？ねえ、ねえ、ねえ、ねえ

幹助 もうやめろ！やめろ！！あの日俺はハナコの足に油を塗ってやってた。お腹の子の経過も順調で、ハナコはいつも通りおとなしかった。そしたら、檻

が壊れそうになるほど地面が揺れてハナコは驚いて足挫いて倒れた。動けなくなつて係員総出で何とかしようとした。だけど全然ダメで電気もつかなくて。地震は何度もきて。ハナコがブルブル震えてるの分かって息もドンドン荒くなつた。誰かが、どうするか選ばなくてはいけないと呟いてすぐに幾つもの懐中電灯がハナコの張った大きなお腹を照らし出し何も無い中、注射器やメスが次々に並べられ俺はその様子を黙って見てた。もしかしたらハナコを助ける方法がなにかあったかもしれないのに俺はただ立ち尽くしたまま、ただ立ち尽くしたまま、ただ立ち尽くしたまま

扉の開く大きな音

二人あわてて椅子に座る

弥生

幹助

弥生

幹助

弥生

幹助

弥生

幹助

弥生

幹助

弥生

幹助

弥生

幹助

弥生

幹助

弥生

幹助

弥生

幹助

弥生

幹助

弥生

誰だった今の

あの人あの、受付の

うあああああつてなつてたね。びつくりしてたね。ドア開けてこんなんで、口のここの所がヒクヒクって

あれは元々何にもしてなくてもずつとなつてるの

何してると思っただろうね

大事な話をしてると思っただんじやない

うそ、だつて真つ暗で、抱きしめあつちやつて。怪しんでるよきつと。なにかよからぬことをしてる最中だつたに違いないって

そんな事ないでしょ？

そうだよきつと。「お邪魔しました」ってすぐ閉めちやつたじゃん

それは関係ないよ。普通誰かいたら閉めるよ

トイレじゃないんだから。仕事戻ったとき大丈夫？白い目で見られない？

大丈夫

あいつ仕事抜けだして彼女連れ込んでとか言われるよ

ああ繁殖期かと思っただけだよ。みんななれっこだから

慣れっこならいいか

飼育日誌に何月何日何時分佐々木発情って書かれる

それはやだな。私は良いけど君が嫌でしょ。いづらくなんなの？

なんないよ。別に変なことしてないし。みんないい人だから

そうか。友達も出来た？

うん、ナマケモノの担当の人とクジャクの担当の人

なに遊ぶの？

幹介 別に。釣り行ったり。パチンコ行ったり

弥生 なんだよ

幹介 なに？

弥生 楽しくやってんじゃん

幹介 ごめん

弥生 んん

幹介 ん？

弥生 楽しくしてくれてよかった

弥生 弁当を取り出して食べる

弥生 まず

幹介 だろ？

弥生 まずくないって言ってたじゃん！象のキス

まず！

それがいいんだよ

なにそれ

幹介 あはは

弥生 元気なの？

幹助 ？

赤ちゃん象

幹助 元気だよ。鼻で水浴びしてやりすぎて鼻に水入っちゃって咳き込むくらい

弥生 どうやって咳き込むの

幹助 コホコホって

弥生 かわいいね

幹助 かわいいよ。子供だからね。苦しそうだけど

弥生 涙が出ちゃうくらい？

幹助 涙が出ちゃうくらい

弥生 ふーん

幹助 うん

弥生 名前は決まってるの？

幹介 まだだよ

弥生 私が決めてあげよう

幹介 そんな勝手に決められないよ。

弥生 また変な名前つけられちゃうよ

幹介 どんな名前でもいいよ

弥生 ちゃんと日焼け止めとか塗ってあげなよ

幹介 日焼け止めなんかいらんよ。あいつら泥とか被るから

弥生 幹介くんも泥とか被りなよ

幹介 俺は焼けてていいんだよ

弥生 名物飼育員になれる

幹介 そんな名物誰も求めてない

弥生 あった方がいいよ。潰れてほしくないここ

幹介 そんなに切羽詰まってるし、だからって飼育員が泥被ってたなら、もうそれ何見に来てるか分かんないだろ

弥生 今日ここに来る前にちよつと見て回って

幹介 そうなんだ。どうだった？

弥生 氷の中に入った果物を食べられなくて熊がかわいそうだった

幹介 あれはあれで楽しんでるんだよ

弥生 あはは。好きだよここ。小さくて。町の動物園って感じで

幹介 うん

弥生 町も。いい町

幹助 そう？

弥生 あんまり見られてないけどきれいだった。バスから見えたの

幹介 うん  
洗濯物があつて。公園があつて子供が遊んでて。学校のチャイムがなったり、電車がゆっくり走ってたり

弥生 別になんてことない町だよ？

幹介 そう。なんてことない普通の町。この町の動物園で幹介君頑張ってるんだなって  
なんだよそれ

弥生 あたし涙も出ない  
幹助 俺も  
弥生 なんでよ、泣け  
幹助 そういふもんじやないだろ、涙は  
弥生 そういふもんだよ  
幹助 違う、涙ってのはもったこう  
弥生 女の子を知らない坊やだね  
幹助 え？  
弥生 きっと象にも嘘泣きで騙されてるよ  
幹助 象は嘘泣きなんてしないよ  
弥生 ちよろいと思われてるに決まってる  
幹介 象は人間と違って嘘なんかつかないよ  
弥生 私はやっぱり象が好きだ君が好きだ  
幹助 え？？  
弥生 (立ち上がる) 行くわ  
幹助 もう？  
弥生 忙しいんでしょ  
幹助 まだもうちよい  
弥生 だめ。行く  
幹助 . . .  
弥生 (扉に向かう)  
幹助 また来いよ  
弥生 うん。来る。象を見に来る  
幹助 うん

弥生出てゆく 幹助一人残される リンゴを拾ってちょっと泣く リンゴを一つ猛烈に食べつくす お腹もすいてないしおいしくもない 何があっても生きていかななくてはならないのだ。少しの間立ち尽くしている

